

---

## これまでのメッセージ

### 日仏経済交流会 会長 関本 勸次

---

2005年5月18日

このたび、池上久雄第3代会長のあとを継いで、会長に就任しました。私は、1993年に当会の設立に加わって以来一貫して当会の事務局担当の任に当たって参り、本来役員を退く年齢です。しかし、もう一踏ん張りすることになりました。この上は、池上前会長の敷かれたダイナミックな会務展開の路線を後退させることなく、日仏新時代の進展に即した活動を展開し、役員の滑らかな若返りを図ることに、全力を尽くす所存です。



当会発足のころは、我々にとってポワチエに象徴されるフランスの高い非関税障壁の記憶も生々しく、フランスにとっては《le Japon, c'est possible》（「ル・ジャポン・セ・ポシブル」）のスローガンがよく似合った時代でした。その後核実験をめぐる曲折はあったにせよ、グローバル化の進展とともに、日仏間の相互理解と協力関係はかつてないほど密接になって既に久しいものがあります。喜ばしいことですが、往事を記憶でなく記録で知る世代の方のご入会が相次いでいます。この現実を考え合やすとき、当会活動の方向を模索するには、従来にも増して複眼的に将来を見据えてかかる必要が痛感されます。

このほど、渡辺昌俊、副島勲、池上久雄、蘆野進、小松原道彦の5氏が役員を退かれましたが、会務に参画する参与になって下さるようお願いして快諾を得ました。経年、名誉会長、会長あるいは副会長として会務にお尽くし下さった功績を称え、深い感謝の念を捧げます。一方、足立純子、姉崎直己、ベルテ・フィリップ、今井正幸、伊藤朋子、澤田義博、関洋介、上田忠彦の8氏が新しく役員になって下さり、若返りが相当に進みました。実に心強いことです。参与の皆様には、今後とも会務について高い見地からするご指導により、若返りのソフトランディングにお尽くし下さるようお願いしてやみません。

当会活動の表部隊は、従来、社会経済関係と文化関係の2つの委員会に分担されてきました。今後はこのそれぞれの深化もさることながら、拡大して重なり合う方向も模索されてよいと考えます。コンテンツ産業が文化産業といわれ、教育は社会経済に不可欠の要素であるからです。この広がりや重なり合いの受け皿の1つとして、今年度から、日仏双方の地域事項を横断的に担当する地域関係委員会を設けます。かねて地域日仏協会とのおつき合いが広がってきていますが、併せてフランスの地域にアクセスする機会の開発を担当して貰う考えです。この3部門の活動はCCIFJ（在日フランス商工会議所）と協調して展開されることがすぐれて必要です。申すまでもなく、フランス大使館、同経済部それに日仏会館を始めとする提携団体とのおつきあいは、これまで以上に密にして参りたい所存です。

当会の内外に対するコミュニケーション関係については、表部隊の活動を画面に直結させることを目的として、ホームページに新機軸を打出すことをもっぱらとする委員会と、パソコンの便のない会員向けの広報やイベント・カレンダーを含む、ホームページ以外のコミュニケーションを担当する委員会に分けて、広報の徹底を図りたい考えです。メンバーシップ委員会には個人情報保護の観点も考慮に入れたデータ管理のあり方をも検討して貰う考えです。

この体制について、会員の皆様におかれては、ご提案と示唆に富んだご意見を最寄りの役員を通じて気軽にお寄せ下さるようお願い申し上げます。そうしたご提案やご意見がイベントに反映され、そのイベントに皆様方の積極的なご参加があり、その上でさらなるご提案とご意見が寄せられる、このような好循環こそ、皆様の日仏関係に対する貢献のあかしとご認識いただきたいと存じます。

パリクラブ活動に関心ある会員でない方に向けて：このホームページご覧戴きましてまことにありがとうございます。パリクラブは、会員拠出の年会費をもっぱら基礎にして、会員それぞれが主役になって活動する場です。さしづめこのホームページを含むヴァーチャル空間がその場の1つです。設立以来11年余、物理的な事務室空間こそありませんが、パリクラブは誇りにするにたる業績を残しています。実践を通じて日仏の交流に自己発見なさりたい方！是非ご入会を！

2005年5月18日

会長 関本 勸次